令和８年度全国学力・学習状況調査から見える花巻市の状況
～結果の分析と改善の手立て～（花巻市教育委員会）

令和８年４月２３日（木）、小学校６年生（市内６３９人）を対象に国語・算数、中学校３年生（市内６１４人）を対象に国語・数学・英語の教科調査と、普段の生活や学習の様子に係る児童生徒質問紙調査等が実施され、１０月２日（金）に文部科学省から最終公表が行われました。

令和８年度 教科調査の結果（小学校６年生、中学校３年生）ー全国・県との比較からー

教科調査については、小学校６年生の国語、中学校３年生の国語、数学、英語で全国、県を下回りました。小学校６年生の算数も全国を下回りましたが、７年ぶりに県を上回りました。

◆　教科調査の平均正答率

小学校６年生	国語	算数	中学校３年生	国語	数学	英語
花巻市	６０	５５	花巻市	６２	５１	４５２
岩手県	６１	５４	岩手県	６４	５３	４６５
全　国	６１	５６	全　国	６４	５７	４９９

※　正答率は小数点以下を四捨五入して整数値で表示【単位%】、中学校英語は平均ＩＲＴスコアで表示。ＩＲＴ（項目反応理論）とは受験者の解答パターンからその能力を推定して各問題の難易度や識別力を評価する理論。

◆　全国と比較する平均正答率の経年変化　※詳細データは参考資料（ｐ．３～７参照）

【小学校】　国語　やや改善（過去最高Ｈ２７＋５ポイント、過去最低Ｒ３・Ｒ６・Ｒ７－２ポイント）
Ｒ６　－２ポイント　➡　Ｒ７　－２ポイント　➡　Ｒ８　－１ポイント
算数　大きく改善（過去最高Ｈ２６＋３ポイント、過去最低Ｒ６－８ポイント）
Ｒ６　－８ポイント　➡　Ｒ７　－５ポイント　➡　Ｒ８　－１ポイント

【中学校】　国語　再び低下（過去最高Ｈ２９・Ｈ３０・Ｒ４＋２ポイント、過去最低Ｒ６・Ｒ８－２ポイント）
Ｒ６　－２ポイント　➡　Ｒ７　±０ポイント　➡　Ｒ８　－２ポイント
数学　再び低下（過去最高Ｈ２９－２ポイント、過去最低Ｒ５・Ｒ６－７ポイント）
Ｒ６　－７ポイント　➡　Ｒ７　－５ポイント　➡　Ｒ８　－６ポイント
英語　前回より改善（過去最高Ｒ８全国比９１、過去最低Ｒ５全国比７７）
Ｒ１　全国比８９　➡　Ｒ５　全国比７７　➡　Ｒ８　全国比９１

※　令和８年度中学校英語は平均ＩＲＴスコアで表示されているため、全国を１００とする全国比換算で比較。

◆　経年変化に係る考察　※説明資料（ｐ．２参照）

かつては小学校段階の学力が県や全国を下回ることはなく、もっぱら中学校段階の数学、英語の学力が県と同様の課題でした。ところが、平成２８年度前後現高３前後の学年から小学校段階の学力の低下が始まると、令和５年度前後現中１までの学年で小学校段階の学力が年々深刻になり、今や中学校段階の学力に大きな影響を及ぼしています。

この状況を改善するため、令和５年度後半から小学校を中心に児童、保護者、教職員等を対象とする多角的かつ多様な取組（以下「令和６年度対策」に同じ）に力を入れています。具体的には、平成３０年度から段階的に行ってきた「中１悉皆学習・生活改善講話」「数学・英語Ｇアップシート」「生徒個別学習相談・指導」等中学校段階の取組に、令和３年度から段階的に行ってきた「学校訪問指導」「児童希望学習・生活改善講話」「保護者等希望子育て・教育講演」「教員個別研」等小学校段階の取組を加え、令和５年度後半から「課題が大きい小５学習・生活講話」「実態周知等悉皆ＰＴＡ役員会説明・保護者講演」「授業改善校内研」等小学校段階の取組を強化しています。

これらの取組の効果は小学校を中心にいずれの学年でも徐々に表れ始め、現小６の場合も今回の調査で全国に迫り、算数は令和元年度以来７年ぶりに県を上回りました。一方、現中３から現中１までの学年は算数を中心に小学校段階の学力が過去最低を更新し続けて中学校に進学し、中学校段階の取組で回復に至るまでには時間を要す状況ですが、低いレベルながらも上向きの傾向が見られます。

【説明資料】

各種学力調査の全国・県と比較した教科別学力の推移

国語	小3 CRT 国	小4 県学 国	小4 CRT 国	小5 県学 国	小5 CRT 国	小6 全学 国A	小6 全学 国B	中1 新入 生国	中1 CRT 国	中2 県学 国	中2 CRT 国	中3 全学 国A	中3 全学 国B
前７		104		101	109	104	105			100	102	101	101
前６		103		103	112	103	107	101		103	104	103	101
前５		104		104	110	107	108	99		102		101	105
前４				99	105	100	103	100	101	100		102	
前３				101	105	103	103	99	101	100			
前２				100		105	102	98	104			102	
前１			104	100		107			103	105		103	
現高３	108		103	98				101	102	99		99	
現高２	107		106			97		95	99	98		96	
現高１	105		106	99		101		100	99			99	
現中３	107		104	99		98		96	98			97	
現中２	100		102	95		97		95	97				
現中１	98		97	96		97		98					
現小６	100		105	100		99							
現小５	105		103										
現小４	101												

算数 数学	小3 CRT 算	小4 県学 算	小4 CRT 算	小5 県学 算	小5 CRT 算	小6 全学 算A	小6 全学 算B	中1 新入 生数	中1 CRT 数	中2 県学 数	中2 CRT 数	中3 全学 数A	中3 全学 数B
前７		104		106	110	101	100			99	94	95	93
前６		104		108	109	102	107	101		103	99	96	98
前５		107		105	109	104	98	101		97		95	96
前４				102	104	101	99	99	93	94		90	
前３				100	105	102	98	98	94	100			
前２				103		101	101	100	96			93	
前１			105	102		101			95	95		93	
現高３	106		103	98				95	95	95		86	
現高２	106		108			94		94	86	90		88	
現高１	104		107	101		97		98	90	102		85	
現中３	107		100	97		94		95	86	96		89	
現中２	103		99	95		87		94	94				
現中１	98		93	95		91		98					
現小６	102		108	103		98							
現小５	107		102										
現小４	101												

英語	中1 CRT 英	中2 県学 英	中2 CRT 英	中3 全学 英
前７		94	96	
前６		99	99	
前５		100		
前４	97	98		89
前３	95	98		
前２	103	99		
前１	97	98		
現高３	100	99		77
現高２	98	99		
現高１	98	99		
現中３	99	98		91
現中２	100			
現中１				
現小６				
現小５				
現小４				

社会	小５ 県学 社	小5 CRT 社	中1 CRT 社	中2 県学 社	中2 CRT 社
前７		101		98	98
前６		101		103	104
前５	104	102		104	
前４	100	102	98	98	
前３	100	100	100	98	
前２	101		104		
前１	101		100		
現高３	100		99		
現高２			96		
現高１			92		
現中３			91		
現中２			95		
現中１					
現小６					
現小５					
現小４					

理科	小5 県学 理	小5 CRT 理	小6 全学 理	中1 CRT 理	中2 県学 理	中2 CRT 理	中3 全学 理
前７	103	106			99	96	
前６	105	105			100	101	
前５	106	107	107		102		100
前４	102	102		104	98		
前３	100	103		102	100		
前２	101		101	96			
前１	101			96・107			95
現高３	100			101			
現高２				90			
現高１			96	91			98
現中３				88			
現中２				95			
現中１			95				
現小６							
現小５							
現小４							

【参考資料】　令和８年度小３～前７義務教育段階のＣＲＴ・県学調・全国学調の花巻市と県・全国の平均正答率との差一覧【単位%】（令和８年７月２８日時点）

Ｒ８年度学年	小３全国CRT	国語	算数	小４全国CRT	国語	算数	小５県学調	国語	社会	算数	理科	小６全国学調	国語A	国語B	算数A	算数B	理科	新入生	国語	数学	中１全国CRT	国語	社会	数学	理科	英語IBA	中２県学調	国語	社会	数学	理科	英語	中３全国学調	国語A	国語B	数学A	数学B	理科	英語
小３	R8			R9			R10					R11						R12			R12																		
小４	R7	+1	0	R8			R9					R10						R11			R11																		
		低下																																				
小５	R6	+3	+5	R7	+2	+1	R8					R9						R10			R10																		
		改善			低下																																		
小６	R5	0	+1	R6	+3	+5	R7	−1	−	+1	−	R8	−1		−1		−	R9			R9																		
		課題			改善			4年ぶりに県と同程度					ここ数年間では改善																											
中１	R4	−2	−2	R5	−2	−4	R6	−2	−	−3	−	R7	−2		−5		−3	R8	−1	−1	R8						R9						R10						
		最低危機			過去最低			過去最低予測覆し改善					算数 R6 より改善						改善																				
中２	R3	+1	+2	R4	+1	0	R5	−3	−	−3	−	R6	−2		−8		−	R7	−3	−3	R7	−2	−3	−3	−3	0	R8	−	−		−		R9						
		課題			過去最低			過去最低大きく更新					過去最低大きく更新						過去最低			数学を中心に社会・理科で善戦																
中３	R2	+4	+5	R3	+3	0	R4	−1	−	−2	−	R5	−1		−4		−	R6	−3	−3	R6	−1	−5	−8	−7	−1	R7	−	−	−1	−	0	R8	−2		−6		−	※-47
		課題						過去最低危機的					算数過去最低危機的						過去最低			理科過去最低更新危機的						昨年度に続き概ね県と同程度						経年で見ればこれでも…				
高１	R1	+3	+3	R2	+4	+4	R3	0	−	+1	−	R4	0		−2		−2	R5	0	−1	R5	−1	−5	−5	−5	−1	R6	−	−	+1	−	−1	R7	0		−5		※-16	−
		改善						前々学年より国算改善					前学年より改善も課題大						やや改善			社会過去最低全体的に課題						数学８年ぶりに県上回り改善						国語・数学 R5・R6 より改善				
高２	H30	+5	+5	R1	+4	+5	R2	コロナ中止	−	コロナ中止	−	R3	−2		−4		−	R4	−3	−3	R4	−1	−3	−8	−6	−1	R5	−1	−	−5	−	−1	R6	−2		−7		−	−
		改善											過去最低危機的						最低危機			数学・理科過去最低危機的						数学過去最低大きく更新						国数昨年度同様大きな課題				
高３	H29	+5	+5	H30	+2	+2	R1	−1	0	−1	0	R2	コロナ中止				−	R3	0	−2	R3	+1	−1	−3	+1	0	R4	−1	−	−2	−	0	R5	−1		−7		−	−1
		課題						学力・意識とも過去低下														小学校・前学年より改善						前学年より数学改善						数英過去最低で大きな課題				
前１	H28	−	−	H29	+3	+4	H30	0	+1	+1	0	R1	+4		0		−	R2	コロナ中止		R2	+2	0	−3	−2	−2	R3	+3	−	−2	−	−2	R4	+2		−3		−2	−
								前学年より国語改善数理低下					前学年並みに安定									前学年より再び低下						前々学年より国語改善数英低下						前学年より国数改善				
前２	H27	−	−	H28	−	−	H29	−1	+1	+2	+1	H30	+3	+1	0	0	+1	R1	−1	0	R1	+2	+2	−2	−2	+2	R2	コロナ中止	−	コロナ中止	−	0	R3	+1		−4		−	−
								前学年より国語低下算数改善					前学年並みに安定									前学年までより大きく改善												前々学年より数学改善				
前３	H26	−	−	H27	−	−	H28	+1	0	0	+1	H29	+2	+1	+1	−1	−	H30	0	−2	H30	+1	0	−4	+1	−3	R1	0	−1	−1	0	−1	R2	コロナ中止				−	−
								前学年よりさらに算数低下					前年度・前学年より改善									数学・英語大きな課題						前年度・前学年より大きく改善										
前４	H25	−	−	H26	−	−	H27	+1	0	+2	+1	H28	0	+1	0	0	−	H29	0	+1	H29	+1	−1	−4	+3	−2	H30	0	−2	−3	−1	−2	R1	+1		−6		−	−6
								前学年までより大きく低下					前学年までより大きく低下									数学・英語大きな課題						前年度までより大きく低下						27 中 3 に類似大きな課題				
前５	H24	−	−	H25	−	−	H26	+3	+3	+4	+4	H27	+5	+5	+3	−1	+5	H28	+1	0	H28	−	−	−	−	−	H29	+1	+1	−1	+1	0	H30	+1	+3	−3	−2	0	−
前６	H23	−	−	H24	−	−	H25	+3	−	+6	+4	H26	+3	+4	+2	+4	−	H27	+1	0	H27	−	−	−	−	−	H28	+1	+1	+2	0	−2	H29	+3	+1	−3	−1	−	−
前７	H22	−	−	H23	−	−	H24	+1	−	+4	+3	H25	+2	+3	+1	+1	−	H26	−	−	H26	−	−	−	−	−	H27	0	−1	0	0	−3	H28	+1	+1	−3	−3	−	−

【本資料の,ねらい】

「前４」の平成２７・２８年度頃から１０年余り、初めは小学校からやがて中学校でもすべての学力調査で全国・県の正答率と花巻市の正答率の差は年々拡大し続け、特に令和８年度は中学校に過去最低を更新し続けてきた課題学年が集結しています。しかし、同一集団を経年で比較すると、令和５年度後半からの多種多様な対策（R6対策）による効果が中３でも数字に表れていることが分かります。教職員や児童生徒がやりがいと目標をもって業務に取り組むことは、教職員や児童生徒のモチベーションを高める有効な手段になります。１０年来の悪い流れを断ち切るため、今一度教職員の皆様のお力添えをお願いします。

【小学校】　H27・２８頃から県・全国と比較して原因不明の第１波学力低下（破線）、R1・２中学年対策で一時改善（破線）、R3 頃からゲーム、スマートフォンの普及等が原因と推測される第２波が重なり深刻な状況（実線）、R6対策で大きく改善（実線）、R7CRT は再びやや心配

【中学校】　H30 まで全国と比較して数学・英語の学力が県共通課題に H29 頃原因不明の第１波学力低下（破線）、R1～4 数英 G アップシート、中１講話等の取組でやや改善（破線）、R4 頃から小学校第１・２波に中学校段階のゲーム、スマートフォンの普及等が原因と推測される影響で深刻な状況（実線）、R6対策でやや改善（実線）

全国学調平均正答率経年データ

※令和７年度中学校理科と令和８年度中学校英語は平均ＩＲＴスコア表示。

令和年度に入ると、すべての校種教科で全国、県との差が拡大

●平成２８年度調査　小学校の国語、算数や中学校の国語の学力に比べ、中学校の数学、英語の学力が引き続き課題

小６	国語Ａ	国語Ｂ	算数Ａ	算数Ｂ	中３	国語Ａ	国語Ｂ	数学Ａ	数学Ｂ
花巻市	７３	５９	７８	４７	花巻市	７６	６７	５９	４１
岩手県	７３	６０	７８	４７	岩手県	７６	６６	５８	４１
全国	７３	５８	７８	４７	全国	７６	６７	６２	４４

●平成２９年度調査　平成２８年度調査に類似する傾向

小６	国語Ａ	国語Ｂ	算数Ａ	算数Ｂ	中３	国語Ａ	国語Ｂ	数学Ａ	数学Ｂ
花巻市	７７	５９	８０	４５	花巻市	８０	７３	６２	４７
岩手県	７７	６０	８１	４５	岩手県	７８	７２	６０	４５
全国	７５	５８	７９	４６	全国	７７	７２	６５	４８

●平成３０年度調査　初の調査となる理科で小学校、中学校とも概ね良好

小６	国語Ａ	国語Ｂ	算数Ａ	算数Ｂ	理科	中３	国語Ａ	国語Ｂ	数学Ａ	数学Ｂ	理科
花巻市	７４	５６	６４	５２	６１	花巻市	７７	６４	６３	４５	６６
岩手県	７４	５７	６３	５１	６１	岩手県	７６	６１	６２	４３	６５
全国	７１	５５	６４	５２	６０	全国	７６	６１	６６	４７	６６

●令和元年度調査　中学校の数学、初の調査となる英語で深刻な状況

小学校６年生	国語	算数	中学校３年生	国語	数学	英語
花巻市	６８	６７	花巻市	７４	５４	５０
岩手県	６７	６６	岩手県	７４	５６	５２
全国	６４	６７	全国	７３	６０	５６

●令和３年度調査　小学校の国語、算数で急激に深刻な状況　※令和２年度コロナ禍中止

小学校６年生	国語	算数	中学校３年生	国語	数学
花巻市	６３	６６	花巻市	６６	５３
岩手県	６５	６８	岩手県	６６	５４
全国	６５	７０	全国	６５	５７

●令和４年度調査　３年ぶり２回目の調査となる理科で小学校、中学校とも課題

小学校６年生	国語	算数	理科	中学校３年生	国語	数学	理科
花巻市	６６	６１	６１	花巻市	７１	４８	４７
岩手県	６７	６２	６３	岩手県	７０	４９	４８
全国	６６	６３	６３	全国	６９	５１	４９

●令和５年度調査　中学校の数学、英語でかつてない極めて深刻な状況

小学校６年生	国語	算数	中学校３年生	国語	数学	英語
花巻市	６６	５９	花巻市	６９	４４	３５
岩手県	６９	６２	岩手県	６９	４６	３７
全国	６７	６３	全国	７０	５１	４６

●令和６年度調査　小学校の国語、算数でさらに急激に深刻な状況、中学校国語も初めて深刻な状況

小学校６年生	国語	算数	中学校３年生	国語	数学
花巻市	６６	５５	花巻市	５６	４６
岩手県	６９	５９	岩手県	５７	４８
全国	６８	６３	全国	５８	５３

●令和７年度調査　小学校は前回より改善も全教科課題、中学校は国語改善も数学、理科課題

小学校６年生	国語	算数	理科	中学校３年生	国語	数学	理科
花巻市	６５	５３	５４	花巻市	５４	４３	４９３
岩手県	６７	５４	５６	岩手県	５４	４３	５０１
全国	６７	５８	５７	全国	５４	４８	５０３

●令和８年度調査　小学校は数年ぶりに改善、中学校は国語、数学、英語課題

小学校６年生	国語	算数	中学校３年生	国語	数学	英語
花巻市	６０	５５	花巻市	６２	５１	４５２
岩手県	６１	５４	岩手県	６４	５３	４６５
全　国	６１	５６	全　国	６４	５７	４９９

全国学調全国を上回った設問数割合経年データ

課題が顕在化した令和年度以降、すべての校種教科で「全国を上回る設問数の割合」が減少

●令和元年度調査

【小学校】国語、算数良好
【中学校】国語良好、数学、英語課題
対策　中１悉皆講話、数学Ｇアップシート、保護者希望講演等

項目＼学年・教科		小学校６年生		中学校３年生		
		国語	算数	国語	数学	英語
全国を上回る設問数の割合		１００	５７	８０	６	５
内訳	＋５％以上	２８				
	－５％以下				４４	４３

●令和２年度調査　中止

対策　令和元年度対策に加え、英語Ｇアップシート、生徒個別学習指導等

●令和３年度調査

【小学校】国語、算数課題
対策　学校訪問、課題校講話講演、児童個別学習指導、保幼こ教員研修等
【中学校】国語良好、数学課題
対策　令和２年度対策に加え、学校訪問等

項目＼学年・教科		小学校６年生		中学校３年生	
		国語	算数	国語	数学
全国を上回る設問数の割合		２９	６	７２	１３
内訳	＋５％以上				
	－５％以下	１４	３７		３１

●令和４年度調査

【小学校】国語、算数、理科課題
対策　令和３年度対策に加え、児童希望講話、保護者希望講演、保幼こ就学前保護者講演、教員個別研修等
【中学校】国語良好、数学、理科課題
対策　令和３年度対策に加え、教員個別研修等

項目＼学年・教科		小学校６年生			中学校３年生		
		国語	算数	理科	国語	数学	理科
全国を上回る設問数の割合		４３	１９	２４	７９	２９	１４
内訳	＋５％以上	７			１４		５
	－５％以下		２５	１２		３６	１４

●令和５年度調査

【小学校】国語、算数課題
対策　令和４年度対策に加え、ふくろう講座授業改善研修等
【中学校】国語良好、数学、英語課題
対策　令和４年度対策に加え、ふくろう講座授業改善研修等

項目＼学年・教科		小学校６年生		中学校３年生		
		国語	算数	国語	数学	英語
全国を上回る設問数の割合		４３	６	６７	０	０
内訳	＋５％以上	７				
	－５％以下	１４	３８		７３	８８

●令和６年度調査

【小学校】国語、算数課題
対策　令和５年度対策に加え、小５悉皆講話、ＰＴＡ役員悉皆説明、保護者講演、校内研等
【中学校】国語、数学課題
対策　令和５年度対策に加え、ＰＴＡ役員悉皆説明、保護者講演、校内研等

項目＼学年・教科		小学校６年生		中学校３年生	
		国語	算数	国語	数学
全国を上回る設問数の割合		２８	０	２０	１３
内訳	＋５％以上	１４			
	－５％以下	２９	７５	２０	６０

●令和７年度調査

【小学校】国語、算数、理科課題
対策　令和６年度対策の継続
【中学校】国語良好、数学、理科課題
対策　令和６年度対策の継続

項目＼学年・教科		小学校６年生			中学校３年生		
		国語	算数	理科	国語	数学	理科
全国を上回る設問数の割合		３６	１３	１２	５７	７	４１
内訳	＋５％以上						９
	－５％以下	１４	５６	３０		５４	３２

●令和８年度調査

【小学校】国語、算数上向き
令和６年度対策の継続
【中学校】国語、数学、英語課題
対策　令和６年度対策の継続

項目＼学年・教科		小学校６年生		中学校３年生		
		国語	算数	国語	数学	英語
全国を上回る設問数の割合		３８	３１	３３	０	６
内訳	＋５％以上					
	－５％以下			７	５６	６９

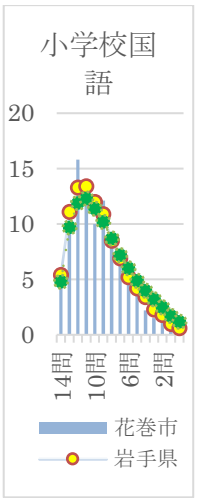
正答数別児童生徒分布経年データ

課題が顕在化した令和年度以降、すべての校種教科で上位層減少・下位層増加

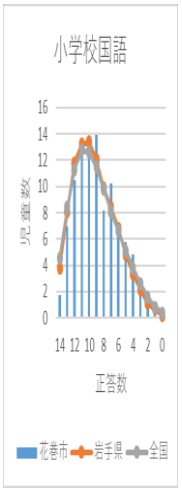
【小学校】

●国語

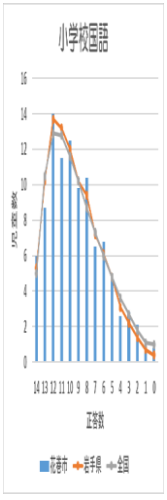
令和元年度



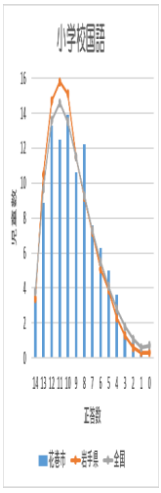
令和３年度



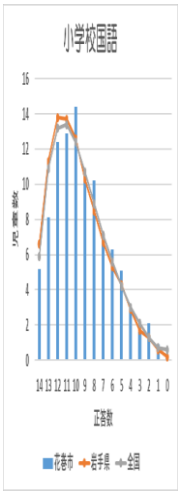
令和４年度



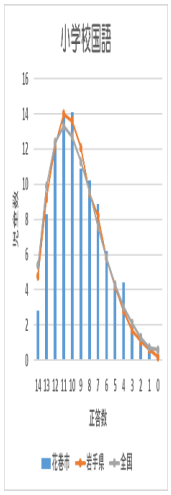
令和５年度



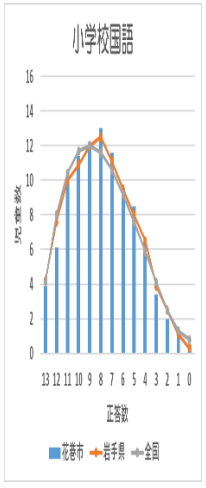
令和６年度



令和７年度

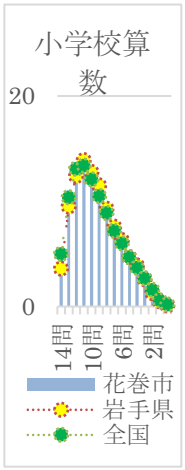


令和８年度

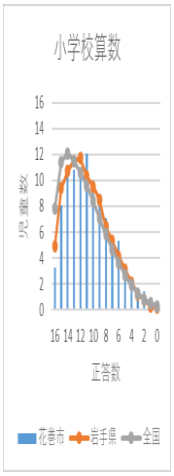


●算数

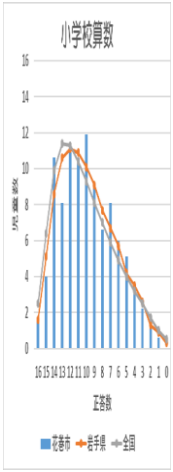
令和元年度



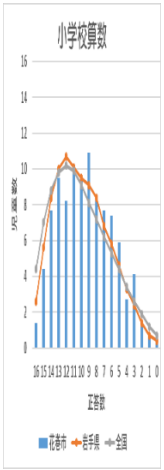
令和３年度



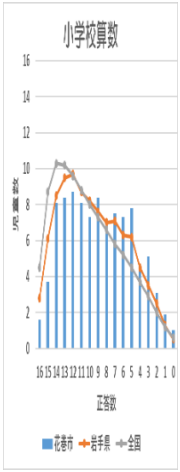
令和４年度



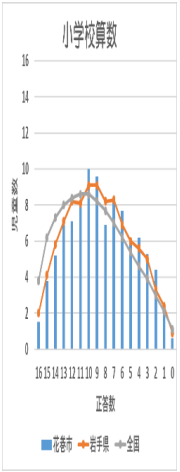
令和５年度



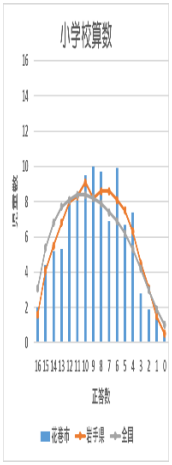
令和６年度



令和７年度



令和８年度

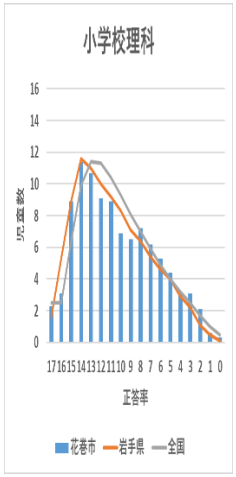


●理科

令和元年度 未実施

令和３年度 未実施

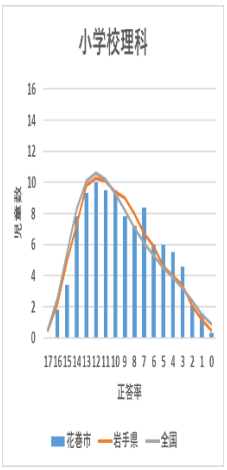
令和４年度



令和５年度 未実施

令和６年度 未実施

令和７年度



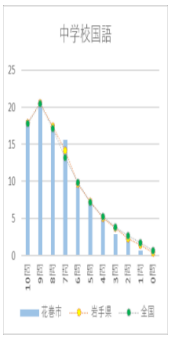
令和８年度 未実施

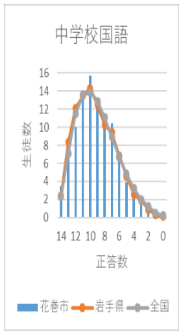
>>> 3年後 >>>

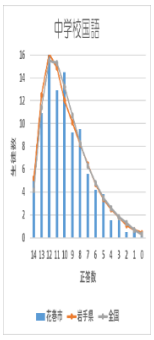
【中学校】

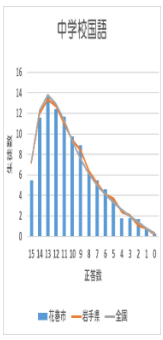
●国語

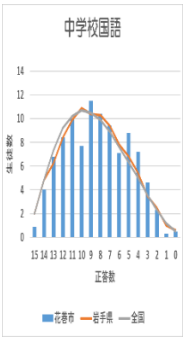
令和元年度　令和３年度　令和４年度　令和５年度　令和６年度　令和７年度　令和８年度

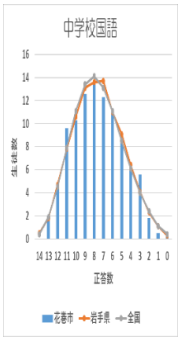


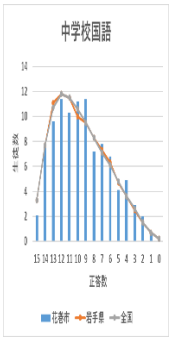








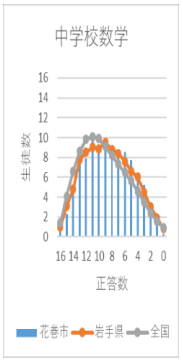


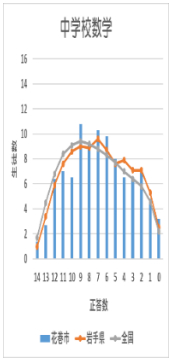


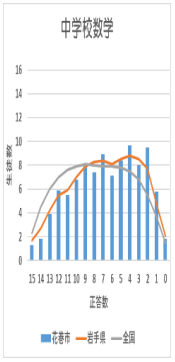
●数学

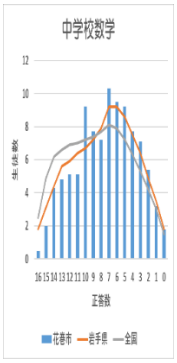
令和元年度　令和３年度　令和４年度　令和５年度　令和６年度　令和７年度　令和８年度

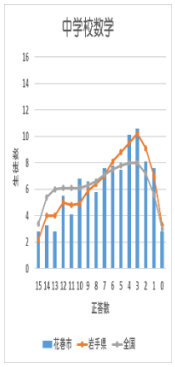


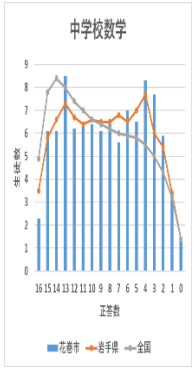








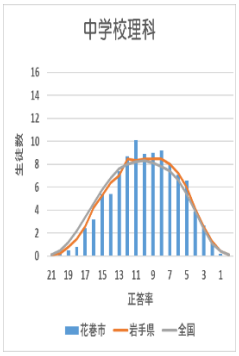




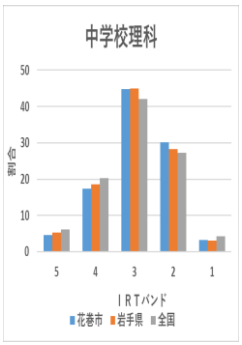
●理科

令和元年度　令和３年度　令和４年度　令和５年度　令和６年度　令和７年度　令和８年度

未実施　未実施　未実施　未実施　未実施



＞＞＞　３年後　＞＞＞

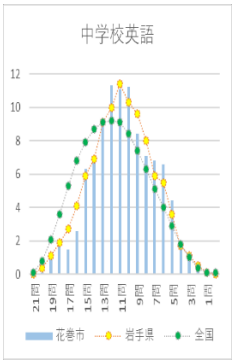


※　令和７年度調査の中学校理科はＩＲＴバンド分布グラフで表示。横軸はＩＲＴバンド、縦軸は割合。

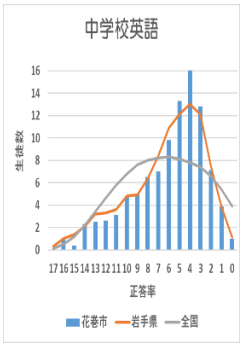
●英語

令和元年度　令和３年度　令和４年度　令和５年度　令和６年度　令和７年度　令和８年度

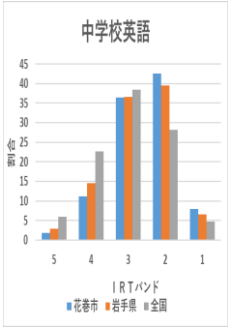
未実施　未実施　未実施　未実施



＞＞＞　４年後　＞＞＞



＞＞＞　３年後　＞＞＞



※　令和８年度調査の中学校英語はＩＲＴバンド分布グラフで表示。横軸はＩＲＴバンド、縦軸は割合。

令和８年度 児童生徒質問紙調査の結果（小学校６年生、中学校３年生）-全国・県との比較から-

児童生徒質問紙調査については、令和５年度まで小学校を中心に年々課題が顕在化していましたが、令和６年度以降は小学校を中心に改善傾向に転じています。令和６年度対策として、小学校を中心に児童、保護者、教職員等を対象とする多角的かつ多様な取組に力を入れた効果が意識調査でも確認されます。

「花巻市学力向上アクションプラン」の具体的な取組は、**「児童生徒の校内生活・授業環境の充実」「児童生徒の実態に即した授業改善の推進」「児童生徒の家庭生活・家庭学習の充実」の３つ**です。ここでは、この３つの枠組みで、児童生徒、保護者、教職員の皆様と共有したい特徴的な内容項目について考察します。

観点１「児童生徒の校内生活・授業環境の充実」に係る内容

過去のデータを分析すると、**学級内の人間関係や児童生徒が学習に集中できる授業環境**は、**児童生徒の学力と密接に関係**することが分かっています。**悉皆実施の中１講話や令和６年度対策で重視している小５講話で必ず取り上げる内容**の一つです。**花巻市の小・中学生は、例えば次のような質問項目で望ましい回答傾向**にあります。

●「人が困っているときは進んで助ける」 【単位%】

令和６年度	小学校６年生			中学校３年生		
	市	県	全国	市	県	全国
当てはまる	46.4	46.6	46.0	50.5	45.9	38.3
どちらかといえば当てはまる	47.9	46.8	46.7	43.7	46.6	51.8
どちらかといえば当てはまらない	5.0	5.7	6.2	4.9	6.0	8.3
当てはまらない	0.7	0.9	1.1	0.8	0.8	1.2
令和７年度	**小学校６年生**			**中学校３年生**		
	市	県	全国	市	県	全国
当てはまる	53.9	53.0	49.2	48.6	45.5	37.9
どちらかといえば当てはまる	42.0	41.7	44.5	45.6	47.8	53.0
どちらかといえば当てはまらない	3.1	4.4	5.4	5.2	5.5	7.8
当てはまらない	1.0	0.8	0.9	0	0.7	0.9
令和８年度	**小学校６年生**			**中学校３年生**		
	市	県	全国	市	県	全国
当てはまる	52.2	49.5	47.3	48.6	46.5	40.8
どちらかといえば当てはまる	38.8	43.8	45.4	45.0	46.6	50.0
どちらかといえば当てはまらない	6.8	5.0	5.6	5.2	5.6	7.4
当てはまらない	1.2	0.9	0.9	0.8	0.7	1.2

●「学級生活をよりよくするため話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決める」【単位%】

令和６年度	小学校６年生			中学校３年生		
	市	県	全国	市	県	全国
当てはまる	45.2	43.7	36.3	39.7	43.6	35.5
どちらかといえば当てはまる	45.7	45.3	47.9	49.2	45.6	50.8
どちらかといえば当てはまらない	6.9	9.1	12.5	8.7	8.6	10.7
当てはまらない	2.2	1.9	3.1	2.0	1.8	2.5
令和７年度	**小学校６年生**			**中学校３年生**		
	市	県	全国	市	県	全国
当てはまる	45.8	45.2	36.5	42.9	39.6	32.6
どちらかといえば当てはまる	43.3	43.8	46.8	49.2	47.8	51.7
どちらかといえば当てはまらない	9.1	9.1	13.1	6.0	10.1	12.3
当てはまらない	1.8	1.7	3.3	1.5	2.1	2.5
令和８年度	**小学校６年生**			**中学校３年生**		
	市	県	全国	市	県	全国
当てはまる	47.2	43.2	35.2	40.8	40.1	34.2
どちらかといえば当てはまる	41.8	43.7	46.3	45.7	47.9	50.3
どちらかといえば当てはまらない	9.0	9.9	13.7	9.9	9.3	11.6
当てはまらない	1.6	2.2	3.5	3.1	2.1	3.0

●「道徳の授業では自分の考えを深め学級やグループで話し合う活動に取り組む」　【単位％】

令和６年度	小学校６年生			中学校３年生		
	市	県	全国	市	県	全国
当てはまる	52.6	48.8	47.3	54.6	56.1	49.8
どちらかといえば当てはまる	39.3	41.8	40.9	38.7	37.0	41.9
どちらかといえば当てはまらない	6.0	7.6	9.3	4.9	5.1	6.0
当てはまらない	2.1	1.8	2.4	1.4	1.4	1.8
令和７年度	小学校６年生			中学校３年生		
	市	県	全国	市	県	全国
当てはまる	49.9	50.3	47.3	59.1	54.8	48.7
どちらかといえば当てはまる	38.6	39.2	40.7	36.6	38.9	42.8
どちらかといえば当てはまらない	9.3	8.4	9.5	2.2	4.7	6.1
当てはまらない	2.1	2.0	2.3	1.3	1.1	1.7
令和８年度	小学校６年生			中学校３年生		
	市	県	全国	市	県	全国
当てはまる	52.6	50.4	47.4	54.6	56.0	50.7
どちらかといえば当てはまる	36.5	38.3	39.5	40.2	37.4	40.6
どちらかといえば当てはまらない	8.2	8.0	9.2	3.3	4.7	5.7
当てはまらない	1.7	1.9	2.4	1.5	1.2	1.9

令和７年度まではいずれかの小学校のいずれかの学年・学級で少なからず落着きを失う生徒指導上の問題が発生していましたが、令和８年度は現時点では深刻化する事案がなく落着きを取り戻しつつあります。観点１「児童生徒の校内生活・授業環境の充実」については、概ね取組の効果が出ていると考えています。

観点２「児童生徒の実態に即した授業改善の推進」に係る内容

多くの質問項目で望ましい回答傾向を示す花巻市の児童生徒ですが、教科調査で特別に厳しい結果が出ている中学校数学・英語については異なり、「教科の勉強が好き」の「強い肯定的回答」は、国語に比べて昨年度までと同様に全国、県を大きく下回りました。

●「国語の勉強が好き」　【単位％】

令和６年度	小学校６年生			中学校３年生		
	市	県	全国	市	県	全国
当てはまる	27.1	25.4	24.1	26.9	25.5	24.4
どちらかといえば当てはまる	44.6	42.6	37.9	46.4	43.6	39.9
どちらかといえば当てはまらない	18.1	20.8	24.4	19.6	22.9	25.2
当てはまらない	10.2	11.0	13.6	6.8	7.8	10.3
令和７年度	小学校６年生			中学校３年生		
	市	県	全国	市	県	全国
当てはまる	29.2	27.0	24.1	20.5	25.6	21.6
どちらかといえば当てはまる	40.9	38.6	34.2	44.7	41.2	35.3
どちらかといえば当てはまらない	20.2	23.2	26.7	26.4	25.0	29.2
当てはまらない	9.6	11.1	14.8	7.9	7.8	12.5
令和８年度	小学校６年生			中学校３年生		
	市	県	全国	市	県	全国
当てはまる	27.8	28.5	21.6	22.8	25.1	22.3
どちらかといえば当てはまる	38.4	36.9	38.8	42.1	40.6	34.9
どちらかといえば当てはまらない	21.3	23.3	27.2	26.8	26.0	28.9
当てはまらない	12.0	10.7	11.9	8.0	8.9	13.6

●「算数・数学の勉強が好き」　【単位％】

令和６年度	小学校６年生			中学校３年生		
	市	県	全国	市	県	全国
当てはまる	28.0	31.0	34.0	21.9	26.0	29.4
どちらかといえば当てはまる	28.6	28.3	27.0	28.0	28.5	27.8
どちらかといえば当てはまらない	24.3	23.3	21.4	31.7	27.9	24.7
当てはまらない	19.0	17.4	17.7	18.4	17.5	17.8
令和７年度	小学校６年生			中学校３年生		
	市	県	全国	市	県	全国
当てはまる	29.7	31.8	33.7	22.0	22.6	26.5
どちらかといえば当てはまる	26.8	26.5	24.2	27.3	27.7	27.3
どちらかといえば当てはまらない	24.7	22.6	21.5	30.9	29.6	25.6
当てはまらない	18.6	19.0	20.6	19.2	19.7	20.4
令和８年度	小学校６年生			中学校３年生		
	市	県	全国	市	県	全国
当てはまる	29.5	31.5	33.9	18.5	26.0	28.8
どちらかといえば当てはまる	27.3	25.5	23.7	25.7	27.8	27.3
どちらかといえば当てはまらない	21.9	23.3	21.6	32.8	27.2	23.8
当てはまらない	20.8	19.2	20.4	22.8	18.6	19.6

●「英語の勉強が好き」　【単位％】

令和６年度	小学校６年生			中学校３年生		
	市	県	全国	市	県	全国
当てはまる	34.3	40.6	38.2	調査項目なし		
どちらかといえば当てはまる	34.0	33.1	31.1			
どちらかといえば当てはまらない	21.2	16.3	17.9			
当てはまらない	10.5	10.0	12.7			
令和７年度	小学校６年生			中学校３年生		
	調査項目なし			調査項目なし		
令和８年度	小学校６年生			中学校３年生		
	市	県	全国	市	県	全国
当てはまる	31.2	38.9	37.8	21.0	24.1	24.6
どちらかといえば当てはまる	32.1	30.8	28.9	27.8	29.5	26.6
どちらかといえば当てはまらない	22.5	17.9	19.0	29.6	27.7	25.7
当てはまらない	13.7	11.8	13.7	21.5	18.4	22.6

また、同様に、**中学校数学・英語の「授業内容が分かる」の「強い肯定的回答」も、昨年度までと同様に全国、県を大きく下回り**ました。

●「国語の授業内容がよく分かる」　【単位％】

令和６年度	小学校６年生			中学校３年生		
	市	県	全国	市	県	全国
当てはまる	45.8	39.7	39.2	33.2	31.5	32.0
どちらかといえば当てはまる	42.9	48.6	47.1	54.9	53.1	50.7
どちらかといえば当てはまらない	8.2	9.2	10.8	10.0	12.5	13.6
当てはまらない	2.9	2.4	2.8	1.4	2.5	3.0
令和７年度	小学校６年生			中学校３年生		
	市	県	全国	市	県	全国
当てはまる	38.7	37.6	35.9	23.1	28.7	25.4
どちらかといえば当てはまる	48.9	49.2	46.9	59.7	53.8	51.6
どちらかといえば当てはまらない	8.8	10.4	13.2	13.9	14.7	18.2
当てはまらない	3.4	2.8	3.9	2.4	2.3	4.3

令和８年度	小学校６年生			中学校３年生		
	市	県	全国	市	県	全国
当てはまる	38.8	37.9	36.1	26.5	29.6	27.1
どちらかといえば当てはまる	45.7	46.8	45.4	55.9	52.0	49.7
どちらかといえば当てはまらない	10.7	11.5	13.6	14.6	15.0	17.8
当てはまらない	4.5	3.2	4.2	2.6	3.1	4.9

●「算数・数学の授業内容がよく分かる」　【単位％】

令和６年度	小学校６年生			中学校３年生		
	市	県	全国	市	県	全国
当てはまる	38.0	40.5	44.9	28.0	32.2	35.1
どちらかといえば当てはまる	42.6	41.0	37.2	41.4	40.2	40.6
どちらかといえば当てはまらない	14.9	13.7	13.1	22.1	19.6	17.2
当てはまらない	4.6	4.7	4.8	8.5	7.6	6.6
令和７年度	小学校６年生			中学校３年生		
	市	県	全国	市	県	全国
当てはまる	34.5	38.2	41.7	24.3	25.0	30.1
どちらかといえば当てはまる	41.4	39.9	36.6	43.5	40.6	40.2
どちらかといえば当てはまらない	17.4	15.9	15.1	22.9	24.3	20.5
当てはまらない	6.8	6.0	6.5	8.8	9.5	8.8
令和８年度	小学校６年生			中学校３年生		
	市	県	全国	市	県	全国
当てはまる	37.4	38.0	41.9	24.6	31.5	34.6
どちらかといえば当てはまる	37.4	39.2	35.6	38.9	39.4	39.6
どちらかといえば当てはまらない	17.5	16.2	15.1	26.5	20.9	17.6
当てはまらない	7.3	6.3	6.8	9.9	7.8	7.7

●「英語の授業内容がよく分かる」　【単位％】

令和６年度	小学校６年生			中学校３年生		
	市	県	全国	市	県	全国
当てはまる	41.2	43.8	43.6	調査項目なし		
どちらかといえば当てはまる	35.6	37.1	34.7			
どちらかといえば当てはまらない	16.5	13.6	14.8			
当てはまらない	6.6	5.4	6.8			
令和７年度	小学校６年生			中学校３年生		
	調査項目なし			調査項目なし		
令和８年度	小学校６年生			中学校３年生		
	市	県	全国	市	県	全国
当てはまる	調査項目なし			22.4	24.8	27.6
どちらかといえば当てはまる				35.6	37.8	36.6
どちらかといえば当てはまらない				27.3	24.8	22.0
当てはまらない				14.5	12.3	13.1

以上のことから、観点２「児童生徒の実態に即した授業改善の推進」については、児童生徒が「分かった」「できた」をより実感し、興味・関心が持てる授業に改善していくことが何よりも重要と考えています。

観点３「児童生徒の家庭生活・家庭学習の充実」に係る内容

児童生徒の動画視聴時間、ゲーム時間については、令和６年度は各学校、各ご家庭のご理解ご協力をいただき、特に中学生を中心に望ましい回答傾向でした（令和７年度はいずれも調査項目なし）。しかし、令和８年度の動画視聴時間は一変して悪化しました（令和８年度はゲーム時間の調査項目なし）。

●「児童生徒の平日１日当たりの動画視聴時間」　【単位％】

令和６年度	小学校６年生			中学校３年生		
	市	県	全国	市	県	全国
４時間以上	10.6	9.0	11.9	10.4	12.4	18.2
３時間以上	8.4	8.3	8.8	9.7	12.6	14.3
２時間以上	13.5	14.0	13.1	24.0	23.5	23.4
１時間以上	19.3	19.1	17.3	30.1	26.1	23.3
３０分以上	13.0	13.8	13.3	12.0	12.0	10.7
３０分未満	12.8	11.9	14.6	7.2	6.0	5.8
持ってない	22.2	23.8	21.1	5.9	6.8	3.4
令和７年度	小学校６年生			中学校３年生		
	調査項目なし			調査項目なし		
令和８年度	小学校６年生			中学校３年生		
	市	県	全国	市	県	全国
４時間以上	22.5	18.6	21.9	25.0	20.9	28.8
３時間以上	16.0	17.2	15.7	21.8	21.0	20.8
２時間以上	20.2	22.7	20.0	28.8	28.3	25.3
１時間以上	25.0	23.3	20.9	17.4	20.9	16.9
３０分以上	7.8	10.1	11.0	4.2	5.4	5.1
３０分未満	4.2	4.5	5.7	1.6	1.9	1.9
持ってない	3.9	3.3	4.5	1.1	1.2	1.0

●「児童生徒の平日１日当たりのゲーム時間」　【単位％】

令和６年度	小学校６年生			中学校３年生		
	市	県	全国	市	県	全国
４時間以上	14.9	13.8	17.7	9.1	11.3	16.6
３時間以上	11.2	12.4	12.6	10.4	11.2	12.4
２時間以上	21.4	20.4	18.9	21.9	22.0	19.9
１時間以上	25.8	28.1	25.1	26.0	24.8	21.4
１時間未満	18.1	17.7	17.7	19.5	18.7	17.7
全くしない	8.7	7.6	8.0	12.1	11.4	11.2
令和７年度	小学校６年生			中学校３年生		
	調査項目なし			調査項目なし		
令和８年度	小学校６年生			中学校３年生		
	調査項目なし			調査項目なし		

これに対して、花巻市の児童生徒の家庭学習時間については、令和６年度までも全国、県に比べて少ない傾向が続いていましたが、令和８年度は小・中学校ともにさらに減少しました。

●「児童生徒の平日１日当たりの家庭学習時間」　【単位％】

令和６年度	小学校６年生			中学校３年生		
	市	県	全国	市	県	全国
３時間以上	4.4	4.1	11.0	1.2	2.6	9.2
２時間以上	9.9	11.4	12.5	14.9	12.8	22.5
１時間以上	42.3	49.8	31.1	44.3	43.5	32.6
３０分以上	30.9	25.6	27.0	27.1	27.3	18.4
３０分未満	9.9	6.7	13.0	9.6	9.7	10.4
全くしなしない	2.7	2.4	5.3	2.6	3.7	6.6

令和７年度	小学校６年生			中学校３年生		
	市	県	全国	市	県	全国
３時間以上	5.4	5.9	12.1	4.8	5.7	9.9
２時間以上	9.4	12.1	12.8	12.1	12.4	20.9
１時間以上	46.5	46.7	29.1	42.6	39.2	30.8
３０分以上	30.6	27.2	27.4	29.1	27.0	19.1
３０分未満	6.8	6.3	12.9	9.0	11.1	11.3
全くしなしない	1.0	1.8	5.7	1.5	3.9	7.7
令和８年度	小学校６年生			中学校３年生		
	市	県	全国	市	県	全国
４時間以上	0.8	1.5	6.3			
３時間以上	2.6	2.7	3.3			
２時間以上	7.8	9.8	7.4	小学校と異なる選択肢		
１時間以上	40.4	36.7	21.9			
１時間未満	33.4	29.7	32.7			
全くしなしない	6.2	6.5	16.0			
令和８年度	小学校６年生			中学校３年生		
	市	県	全国	市	県	全国
３時間以上				1.0	2.6	8.9
２時間以上				7.5	11.0	21.2
１時間以上	中学校と異なる選択肢			35.6	39.3	31.5
３０分以上				34.0	29.6	19.5
３０分未満				17.2	12.5	11.5
全くしなしない				4.1	4.4	6.9

今後は、動画視聴時間の増加と家庭学習時間の減少がますます深刻になることが予測されます。観点３「児童生徒の家庭生活・家庭学習の充実」については、改めて家庭生活習慣の充実と自主的な学習への意欲など学びへの意識を高める手立てを強化する必要があります。

令和８年度調査結果に係る分析のまとめと改善の手立て

教科調査については、小学校が、かつての学力レベルまでには到達していないものの、７年前の学力レベルまでに回復しつつあります。一方、中学校は、令和元年度前後に小学校入学以来小学校段階の学力が年々過去最低を更新し続けてきた学年が進学し、中学校の取組で回復に至るまでには時間を要す状況です。

児童生徒質問紙調査については、観点１「児童生徒の校内生活・授業環境の充実」は概ね望ましい状況にあります。観点２「児童生徒の実態に即した授業改善の推進」は、中学校数学・英語を中心に児童生徒が「分かった」「できた」を実感できるように授業改善していくことが何よりも重要です。観点３「児童生徒の家庭生活・家庭学習の充実」は、改めて家庭生活習慣の充実と自主的な学習への意欲など学びへの意識を高める手立てを強化する手立てが必要です。

そこで、令和８年度は、特に次の対策に力を入れています。積極的な実施・活用をお願いします。

観点２に係る対策の一つとして

令和８年度花巻市教育研究所「夏季ふくろうラボ」スタートアップ研修

（ｐ．１４・１５参照）　すでに開始

観点３に係る対策の一つとして

学力向上支援員による「講話・講演・講義等」（ｐ．１６・１７参照）

教育振興運動推進協議会等を通して地域の方々に広げたり、平和３年度に取り組み始めたもののコロナ禍で頓挫していた幼稚園・保育所・認定こども園に通う園児の保護者等の皆様にも届くように再開したりしています。この取組はすでに西南地区で実施・計画し、今後他地域・他園にも拡大できればと考えています。

令和８年度花巻市教育研究所「夏季ふくろうラボ」スタートアップ研修

「冬季ふくろうラボ」スタートアップ研修までの道のり



２０２６．８．３（月）
「夏季ふくろうラボ」

スタートアップ研修３講座で実践者養成

２０２６．９～１１月
「研究班研究員の授業参観」

国が目指している授業にアクセス

プラス「自らもちょっと授業実践」





２０２７．１．７（木）
「冬季ふくろうラボ」
研究班研究員の開設講座に参加

２０２７．１．２０（水）
「研究所研究発表会」
研究班研究の概要発表

「夏季ふくろうラボ」

＋「冬季ふくろうラボ」

より磨かれた授業の実践者誕生



令和８年度花巻市教育研究所「夏季ふくろうラボ」スタートアップ研修３講座

講座	講座Ａ・Ｂ・Ｃの概要
Ａ	＜８月３日(月) ９：００～１０：３０＞ ［石鳥谷総合支所　大会議室］ **スタートアップ研修①「学級力を高める手立てを考えてみましょう!」** **学力向上支援員　伊藤信彦** 小学校を中心に、児童の落着かない状態や意欲的に学びに向えない実態に苦労する先生方が増え、県や全国と比較する学力にも影響を及ぼしています。そこで、「学力向上アクションプラン」に「学級力」の柱を設け、幼児教育で重視される非認知能力に着目して、担当業務や教育研究所の取組等で自主自律に向かう学級づくりに取り組んでいます。本年度は、各学校の先生方のご努力のおかげで、現時点で授業が成り立たないという情報がなく、取組の効果が出ているのではないかと感じています。 さて、静かなクラスは良い学級で、騒がしいクラスは悪い学級なのでしょうか？大方の先生方は、授業の目当てを達成するために盛り上がり、集中すべきところで切り替えられるクラスは良い騒がしさがある学級、授業の目当てと関係ない勝手なおしゃべりがあり、他の人の発表を聞かないで自己中心的な言動があるクラスは悪い騒がしさがある学級と考えるのではないでしょうか。 本講座は、良い騒がしさと静けさを兼ね備えた学級、自主自律に向かう児童生徒を育成する手立てについて、グループ討議を通して一緒に考えていきます。２学期の実践に活かせる取組を一緒に考えていきましょう。
Ｂ	＜８月３日(月) １０：４０～１２：１０＞ ［石鳥谷総合支所　大会議室］ **スタートアップ研修②「単元を通して授業をデザインしてみましょう!【計画編】」** **学力向上支援員　伊藤信彦** 本講座は、県や全国との学力差が広がり続ける市の課題解決を見据え、令和５年度から継続している研修です。当初は、市内の児童生徒の複雑化する学力実態を踏まえ、自らの実践に課題意識を持つ若手教員を対象に、「指導と評価の一体化」と「習熟に応じた個別最適化」の観点から「『できた』『分かった』で終わる授業づくり」に取り組みました。その後、「個別最適な学び」「協働的な学び」等の国の動向を踏まえつつ、「学ぶ内容、学び方、確かめ方等の項目」の観点において児童生徒に委ね『自立した学習者』を育む手立てを加味した授業づくりにも取り組み、ベテランの先生方のニーズにも応えようと試みています。 文部科学省教育課程企画特別部会「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のためのサポートマガジン基本編」に、「『教師が教える』ことが悪で、『子どもに委ねる』ことが善である、という二項対立的な考え方は正しくありません。教師の力量・特性、子どもの現状・実態、教科の単元・内容を踏まえて、すべての子どもに３つの「資質・能力」を育成するためには、どのような学習過程・学習方法・学習形態が適しているのか、吟味して授業づくりを進めることが肝要です」という記載があります。教師には単元を単位にして状況や実態に応じて多様な指導ができるような力量が求められているのだと思います。 本年度は、自ら受け持つ児童生徒の実態に応じた授業改善、自らのキャリアアップを目指す授業改善、研究授業の指導案づくり等、自らの実践の課題解決のために「単元全体を見通した授業づくり」「学習指導略案の協議・演習」に取り組みたいと思います。 １０：４０～１０：５５　本講座の進め方の説明と研修形態の確認 １１：００～１２：１０　午後の単元レベルの授業づくりに向けた構想
Ｃ	＜８月３日(月) １３：３０～１６：３０＞ ［石鳥谷総合支所　大会議室］ **スタートアップ研修③「単元を通して授業をデザインしてみましょう!【実践編】」** **学力向上支援員　伊藤信彦　指導主事等** 講座Ｂの受講者は、会場をそのままお使いいただき、涼しく静かな環境でじっくり作業を継続していただくことができます。一人でじっくり、指導主事の先生と一緒に、参加している仲間とともに、同じ教科や学年のグループで、「自立した研修者」として「単元全体を見通した授業づくり」「学習指導略案の協議・演習」等に取り組んでみませんか。 小学校でも、中学校でも、どの学年でも、どの教科・領域でも構いません。２学期に取り扱う教科の教科書、単元テスト（中学校の先生は２学期中間・期末テスト問題の片面コピー）、はさみ、ノリ、筆記用具、ご自分のパソコンを使いたい方はパソコン等、各自必要と考える物をご用意いただき、奮ってご参加いただきたいと思います。 「令和８年度学力向上アクションプラン」の柱の一つ「授業力」を高めるため、「自立した研修者」として２学期の実践に活かせる単元レベルの計画づくりに取り組んでみましょう。

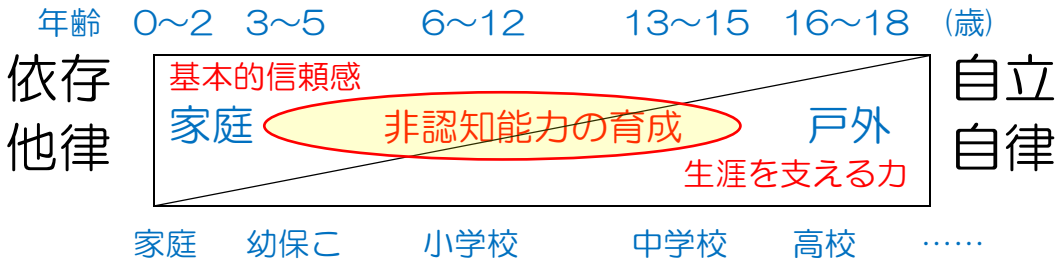
学力向上支援員による「講話・講演・講義等」の基本的な考え方

● 令和６年度以降、学力向上担当の「講話・講演・講義等」を次のように拡充して実施してきました。

項目	児童生徒対象	保護者等対象	教職員対象
全体対応	講話「小中学校期に身に付けたい生活・学習習慣」 ●中１講話は悉皆実施（所要時間：１単位時間） ◎小５講話は可能な限り実施（所要時間：１単位時間） ○上記以外の学年・学級講話は学年・学級の実態に応じ希望実施（所要時間：１単位時間）	講演「巻き戻して見える子育て、教育のポイント」 ◎ＰＴＡ役員会・ＰＴＡ総会・授業参観日ＰＴＡ研修会・教育懇談会等での講演は可能な限り実施（最低所要時間：15分、30分程度） ○学年・学級単位の保護者講演は希望実施（最低所要時間：15分、30分程度）	講義「生徒指導の機能を生かす授業改善の方策」 ●管理職・主任等説明は学校訪問時に悉皆実施（所要時間：１時間程度） ◎校内研究会は可能な限り実施（所要時間：１単位時間） ○学年・学団・教科等各種研修会対応は希望実施（所要時間：１単位時間）
個別対応	指導「算数・数学、英語の基礎基本を定着する学習指導」 ○学級に入れない等、課題を有す児童生徒の学習指導	相談「子どものやる気を育む家庭環境と親の関り方」 ○子育て、家庭教育に悩みを抱える保護者等の教育相談	研修「結果につなげる学級づくりと授業づくり」 ○学級経営、授業実践に課題意識をもつ教員の個別研修
ﾊﾟｯｸ対応	総合（Ｒ７新規）Ｒ６実績を踏まえ、「多方面から同時に多様な対策を総合的に講じて、短期間で効率的・効果的に成果を生み出すことを目的とする取組」です。学校と協議・相談しながら、学校の実態・状況に応じて講話・講演・講義・指導・相談・研修を適宜組み合わせながら効果的に取組を進めます。		

● これらの取組は、次のような基本的な考え方に基づいて実施しています。

子どもの発育・成長



大人も子どもも、人は満足によって意欲が出ます。勉強でもスポーツ・文化活動でも、遠い理想を追いかけるより身近な目標を立て達成を繰り返す方がやる気につながります。他の子どもとの比較ではなくその子自身の成長を、大人のものさしではなくその子の発達に応じた視点で、きめ細かに看取り、その子の特質に応じて時に認め時に励ます親や先生など私たち大人の関わりが、小さな満足でも自分で自分を褒め、その積み重ねが励みや自信となり、やがて子どもは自分を適切に評価する自己評価の力を身に付け、自立に向けて力強く歩み出します。

依存から自立へ

様々な社会経験を重ね３０代から教育に携わる仕事に就いた私は、「若者の教育に際しては、彼らが成長途上にあり未成熟であることを認識しなくてはならない。若者は、自由とともに管理、コントロールを求めている。このバランスを保ちながら若者を育てなければ、若者は幸せな成熟した大人に成長することはできない。自由と規律の調和、規律に裏付けられた自由を実現することが、若者を取り巻く我々大人に課せられた役割であり使命である。」と考えています。

他律から自律へ

● 具体的には、次のような子どもの生活、学習、生き方をすすめ、定着することを目指しています。

《子どもの生活》

同じ時間に起き、勉強し、寝る、子どもの生活リズムは一定にします。勉強は時間になったら自然に始め、１０分間は続けます。いつしか集中してやる気になっている自分に気が付きます。人は睡眠中に記憶を整理・定着させるそうです。だから、夜更かし、徹夜は駄目です。覚えた直後より睡眠後の方が記憶が定着するそうです。だから、眠い時は我慢せずに布団に入って寝ます。テレビ、ゲーム、ＳＮＳ……は親や自分との約束の範囲で使用することを徹底します。やがて子どもは自分を管理、コントロールする力が身に付き、自律できるようになります。テレビ、ゲーム、ＳＮＳ……誘惑に満ちた難しい時代だからこそ、学校も家庭も地域も結束して将来を担う若者を守らなければなりません。

良い生活習慣を身に付けさせましょう

《子どもの学習》

中学生の頃から徐々に丸暗記が苦手になるそうです。知識はアウトプットで定着するようになるので、使う・思い出す学びが大切です。「主体的・対話的で深い学び」の授業改善が求められているのもそのためです。家庭学習では、マーカーや付箋、ノートや本の見直しだけでは受け身（インプットのみ）で記憶に残りにくいことから、例えば要点を書く、声に出す、説明する、反復テストで確認することが有効です。一夜漬けは効果が少なく忘れるのも早いので、その日か翌日に復習して思い出す訓練をし、１～２週間後に再度復習で仕上げをします。一気に詰め込まず、間隔を空けて繰り返すことが大切です。努力と成果は比例しないと考える人がいると思いますが、最初は伸びが鈍くても努力を続ければ後から大きく伸びるそうです。学びの効果は表れるまで３か月～半年かかるということです。嫌々な学びは身に付かないそうで、「なるほど！」「面白い！」「遊びに熱中！」の積み重ねが得意科目につながります。

効果がある学び方を身に付けさせましょう

《子どもの生き方》

自制心や意欲、忍耐力など非認知能力を高める取組が高学力、生きる力につながるそうです。認知能力を高めるには様々な場面で非認知スキルを重視することが大切です。例えば、自信を持つ、最後までやり抜く、自分の考えをしっかりと伝える、人の役に立つ、明るく前向きに取り組む、笑顔と良い姿勢がやる気と集中力につながります。日本の教育は生徒会活動や部活動が重視され、自然に非認知能力を高める取組が位置付いていましたが、これからは今まで以上に家庭や地域でも非認知スキルの育成を意識して子どもを育てることが大切です。

人としての有様を価値づけ広めましょう

児童の皆様向けの講話、生徒の皆様向けの講話、保護者の皆様向け講演、教職員の皆様向けの講義の要点を記載した詳細資料は、花巻市ホームページ「令和８年度花巻市学力向上アクションプラン等・具現化のための学力向上担当主要業務」をご覧いただき、市内児童生徒の健全育成と学力向上に向けて、それぞれのお立場から活用していただければ嬉しいです。

児童生徒の皆様、保護者の皆様。教職員の皆様、
笑顔になりましょう。自信を持ちましょう。勇気を出しましょう。
違うものは違うと言いましょう。おかしいことはおかしいと伝えましょう。一緒に前を向いて進みましょう。
皆で正しい道を探しましょう。皆で大切な道を歩みましょう。皆で子どもの力を育みましょう。

【補足資料】　全国学力・学習状況調査学校質問紙調査結果の変容状況

令和７年度から全国学力・学習状況調査に係る国の公表の仕方が変更され、全国の都道府県と政令指定都市の教科調査、児童生徒質問紙調査、学校質問紙調査の結果が誰でも閲覧できるようになりました。令和７年度に高学力だった他県データと比較しつつ、令和７年度に課題だった学校質問紙調査項目の令和８年度の変容状況を「花巻市学力向上アクションプラン」の「児童生徒の校内生活・授業環境の充実」「児童生徒の実態に即した授業改善の推進」「児童生徒の家庭生活・家庭学習の充実」の三観点に沿ってまとめます。

観点１「児童生徒の校内生活・授業環境の充実」に係る内容

●観点１に係る花巻市の実態●

学校質問紙調査「授業中の私語が少なく、落ち着いている」の強い肯定的回答の割合は次の通りです。

【小学校】　令和７年度　花巻市 12.5　岩手県 40.8　全　国 35.5　石川県 42.7　秋田県 41.7
　　令和８年度　花巻市 12.5　岩手県 37.1　全　国 32.3　石川県 46.8　秋田県 31.7
【中学校】　令和７年度　花巻市 54.5　岩手県 49.0　全　国 47.3　石川県 60.5　秋田県 50.0
　　令和８年度　花巻市 45.5　岩手県 46.0　全　国 43.6　石川県 52.4　秋田県 43.1

「言語活動に、国語科を要とし、各教科等の特質に応じ、学校全体として取り組んでいる」の強い肯定的回答の割合は次の通りです。

【小学校】　令和７年度　花巻市　6.3　岩手県 43.5　全　国 44.8　石川県 56.3　秋田県 41.7
　　令和８年度　質問項目なし
【中学校】　令和７年度　花巻市 27.3　岩手県 35.2　全　国 39.4　石川県 61.6　秋田県 31.7
　　令和８年度　質問項目なし

小学校は、依然として「授業中の私語が少なく、落ち着いている」に課題があり、私語がなく落ち着いた学級づくりに苦労している状況が伺えます。

●特に小学校で重視したい視点●

生徒指導に苦労している学年・学級では、児童の安全安心を確保する生活学習環境づくりを重点に、**人間関係能力の育成に力を入れた集団づくりに力を入れ、教室を公的空間と位置付けて居心地よくすることにより学力向上や不適応対策に効果**が出てくるものと考えます。

●学級づくりで力を入れてほしい具体的取組●

児童生徒質問紙調査によると、一般的に学習等で成果を上げている児童生徒は、非認知スキルが高い傾向にあります。児童生徒が学習等で成果を上げるためには、非認知スキルを育む必要があります。そこでまずは、**かつては就学前に身に付けて入学してきたと考えられるこの力が、今は小学校で意識して育てなければならない場合がある**と受け止めなければなりません。そして、課題のある学年・学級集団は一様にこの点に弱点があることから、「学級力」向上の取組の具体策としては、**教室が多くの人が生活・学習する場つまり公の場であることを教え、皆が生活・学習する場を居心地よくするためには、皆が守らなければならないルールがあることを指導**します。その一番大切なルールは、**①授業では基本的に立っている人が発言を許されていること、②それ以外の人は手を休め発言者を見て、その人の話に耳を傾けなければならないこと、③さらにこの間、発言者以外はおしゃべりをしていけないことを徹底**することです。

観点２「児童生徒の実態に即した授業改善の推進」に係る内容

●観点２に係る花巻市の実態●

学校質問紙調査「児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、話し合い、まとめ、表現する学習活動をしている」の強い肯定的回答の割合は次の通りです。

【小学校】　令和７年度　花巻市 18.8　岩手県 31.2　全　国 31.5　石川県 39.1　秋田県 24.4
　　令和８年度　花巻市 25.0　岩手県 27.0　全　国 29.5　石川県 42.0　秋田県 19.5
【中学校】　令和７年度　花巻市 18.2　岩手県 19.3　全　国 27.5　石川県 36.0　秋田県 28.8
　　令和８年度　花巻市 27.3　岩手県 18.7　全　国 25.4　石川県 32.1　秋田県 20.6

「算数・数学の授業で、学習上つまずいた児童生徒に対する対応を行っている」の強い肯定的回答の割合は次の通りです。

【小学校】　令和７年度　花巻市 25.0　岩手県 48.1　全　国 49.1　石川県 57.3　秋田県 45.2
　　令和８年度　花巻市 43.8　岩手県 42.3　全　国 48.2　石川県 59.6　秋田県 45.7
【中学校】　令和７年度　花巻市　0　岩手県 33.1　全　国 43.8　石川県 54.7　秋田県 37.5
　　令和８年度　花巻市 54.5　岩手県 36.0　全　国 43.1　石川県 46.4　秋田県 33.3

「個別最適な学び」「協働的な学び」による「主体的・対話的で深い学び」のある授業づくりについては、小・中学校ともに昨年度より改善し、特に中学校の変容が顕著です。

●小・中学校ともに重視したい視点●

「個別最適な学び」と「協働的な学び」による「主体的・対話的で深い学び」は、多様化複雑化する児童生徒一人一人の資質「知識技能」「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力、人間性」を育み、結果的に「分かった、できたで終われる授業」の実現が児童生徒の学ぶ意欲につながると考えられます。

●授業改善で力を入れてほしい具体的取組●

授業開始のあいさつ、前時までの想起、学習用具、板書、学習課題、学習方法、発問、教師の姿勢、一人学び、学び合い、発言・発表、家庭学習、次時の予告等、授業を充実するために以前から大切にされてきた「不易」の視点、「個別最適な学び」「協働的な学び」による「主体的・対話的で深い学び」を実現するために位置付けられた「流行」の視点等、大切なことは数多くありますが、意識したいことは「分かった・できたで終わる１時間１時間の授業」➡「一人一人が伸びていることを実感できる学習活動（単元テスト結果等の伸長）」➡「授業時間以外でも一層の学習意欲の向上」➡「子どもの成長に係る保護者の信頼」のサイクルの確立です。そこで、学力上位層から下位層まで幅広くなだらかな分布であったり、上位層のくぼみと下位層の膨らみが進行した二極化傾向の分布であったり、近年の花巻市の児童生徒の学力実態を考慮し、「授業力」向上の取組の具体策としては、国の動向を踏まえて作成した一単位時間に組み込める「指導と評価を一体化した習熟に応じた個別最適な学び」により学習者主体の学習指導過程をさらに広めることを重視することです。

観点３「児童生徒の家庭生活・家庭学習の充実」に係る内容

●観点３に係る花巻市の実態●

学校質問紙調査「児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えている」の強い肯定的回答の割合は次の通りです。

【小学校】　令和７年度　花巻市 56.3　岩手県 61.9　全　国 49.3　石川県 63.5　秋田県 72.0
　　令和８年度　花巻市 50.0　岩手県 56.5　全　国 49.4　石川県 68.1　秋田県 67.1
【中学校】　令和７年度　花巻市　9.1　岩手県 36.6　全　国 34.5　石川県 59.3　秋田県 53.0
　　令和８年度　花巻市 36.4　岩手県 43.9　全　国 33.4　石川県 59.5　秋田県 48.0

「児童生徒が家庭学習の課題について、教員の指導改善や学習改善に生かしている」の強い肯定的回答の割合は次の通りです。

【小学校】　令和７年度　花巻市 37.5　岩手県 38.8　全　国 31.0　石川県 39.6　秋田県 43.5
　　令和８年度　花巻市 31.3　岩手県 34.7　全　国 31.4　石川県 42.6　秋田県 40.9
【中学校】　令和７年度　花巻市　9.1　岩手県 19.3　全　国 21.8　石川県 37.2　秋田県 31.7
　　令和８年度　花巻市 18.2　岩手県 22.3　全　国 22.2　石川県 39.3　秋田県 27.5

昨年度、中学校で課題があった家庭学習の仕方や授業とのリンク等については改善傾向です。

●特に中学校で重視したい視点●

学習内容が増えて難しくなる中学校では、生徒の学習内容の定着や活用の力を育む上で、家庭等で行う自主的学習が不可欠であることから、「できた、分かったで終われる授業」から生じる学ぶ意欲を一人で家庭学習に立ち向かうエネルギーにする手立てが必要と考えられます。

●家庭学習で力を入れてほしい具体的取組●

家庭学習時間が長ければ、それだけ学力向上に効果が出ているかと言えば、必ずしもそうではありません。おそらく効果につながる学習方法になっていることが重要なのだと思います。児童生徒講話等に際して児童生徒に勉強の仕方を尋ねると、家庭学習では問題などを解いていて分からないときは問題集の答を見てノートに「写す」学習をしていると応える児童生徒が相当数います。授業でも「考える」ことなく、板書をノートに「写す」学習をしている児童生徒も多くいます。脳を使うことなく、「写す」作業に止まっているために学習成果に結び付いていない心配があります。そこで、児童生徒講話に際しては、効果が出る学習方法や授業の受け方の話をさせていただきます。具体的には、分からない問題や内容については、まずは解説を読んだり教科書で調べたりしてなぜそうなるのか理解して脳にインプットし、その後解説や教科書で理解したことを脳からノートにアウトプットしてみる学習方法（「アクティブリコール」という学習方法）を、授業でノートをとるときは「写す」のではなく「考えながら」自分自身のノートを作ることをすすめます。この学習方法は、これまでの児童講話の手応えから小学校高学年であれば十分に理解し実践できる取組と考えています。家庭学習の充実につきましては、「家庭力」向上の取組として、ご家庭のご理解ご協力をいただきながら進めて参ります。